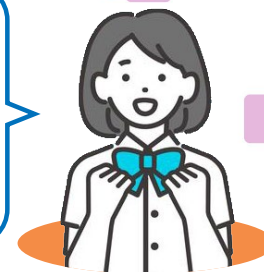


これまでの授業は黙っていれば1時間過ごせてしまう。大切なのは自分で考えることです。考えて問題が解けた時には、爽快感を感じます。



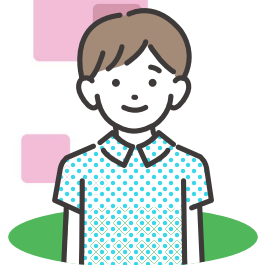
先生の話聞いて勉強するより、自分で進める方が集中できるし理解できる。以前に比べて、自ら何をどう学習すれば良いかを考えて取り組むようになりました。



デジタルを活用した これからの学び

始め方ガイド

今までは先生の話聞いて、ノートにそのまま書き写すみたいな感じで、正直に言うと分かってるのにめんどくさいなと思っていました。自分のペースでできるので楽しかったです。



授業中、子供が頭をフル回転させている授業を実現していく必要があります。学びの主体者は子供であり、教師は伴走者の役割が求められます。
(都内公立小学校校長)



指導観を変えることに葛藤があった先生方も、子供たちが生き生きと学ぶ姿を見て、これからの学びの実践に自信をもって取り組むようになったと感じます。(研究校担当指導主事)



授業では、教師として知識を子供に与えることが重要だと考えていましたが、授業スタイルを変えたところ、自ら学ぼうとする子供が増えてきました。生徒自身の学びのペースが守られることにより、安心して学べるのだと思います。(高等学校教員)



目次

はじめに		2
第1章 授業改善の 方向性を知る	授業改善をととして何をを目指すのか	授業改善の目的を理解する 4
	デジタルの活用を前提とする授業づくりに向けて	デジタルを活用する必要性を理解する 5
	デジタルの活用したこれからの学びとは①	これからの学びの授業デザインを理解する 6
	デジタルの活用したこれからの学びとは②	個別最適な学びと協働的な学びにおけるデジタルの活用について理解する 7
	デジタルの活用したこれからの学びとは③	デジタルを活用したこれからの学びが目指すものを理解する 8
第2章 まずはやってみる	《学びのプロセスを意識させる》授業に取り組む	1学期から、授業の中で「学びのプロセス」を意識させていく 9
	《思考のスキルを身に付ける》授業に取り組む	1学期から、授業の中で「思考のスキル」を意識させていく 10
	《アプリ等を自由に選択できる》授業に取り組む	1学期から、デジタルの日常使いに取り組ませていく 11
	《班ではなく自由に協働相手を選べる》授業に取り組む	1学期から、一人で学ぶか友達と学ぶかを考えさせる 12
	《教員が学びの支援者として活躍する》授業に取り組む	1学期から、自分で学び進めることを意識させていく 13
	《児童・生徒の学習状況を一人1台端末で把握する》授業に取り組む	1学期から、他者参照し学び進めることを意識させていく 14
	《子供が自己の学びを振り返る場面を設定した》授業に取り組む	1学期から、学びを自己調整することを意識させていく 15
第3章 本格的に実施する	子供に学びを委ね、子供が自己決定する授業を推進する	授業改善の取組を統合し、子供の学びをデザインする 16
	1単位時間における支援の例①	授業の開始時における支援 17
	1単位時間における支援の例②	授業の中盤における支援 18
	1単位時間における支援の例③	授業の終盤における支援 19
第4章 様々な工夫	実施事例紹介	20
終わりに		28

参考 『東京都教育ビジョン第5次(令和6年3月)』 https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/about/action_and_budget/action/vision/vision2024
『東京都学校教育情報化推進計画(令和6年3月)』 https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/ict_utilization/informatization_plan
『デジタルを活用したこれからの学びの提案(令和5年4月)』 https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/02_03_03_teian
『デジタルを活用したこれからの学び デジタルブック(令和7年3月)』 <http://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/koremana/digitalbook/index.html>
『デジタルを活用したこれからの学び 授業動画(令和7年3月)』 <https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/koremana360/KJ-jp-YLFB8YdE/wwwroot/spg.html?m=KJ-jp-YLFB8YdE>
『デジタルを活用したこれからの学び 授業体験コンテンツ(令和7年3月)』 <http://koremana.metro.tokyo.lg.jp/>
『デジタルを活用したこれからの学び研究開発委員会指導資料(令和7年2月)』 <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/2025-02-04-091442-862>



はじめに

「東京都教育ビジョン(第5次)」(令和6年3月)では、施策展開の方向性②『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善において、子供が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりを進め、都内全公立学校での展開に向け、普及啓発を図ることを示しています。

都は、令和6年度に「デジタルを活用したこれからの学び研究校」を指定し、学習指導要領解説総則編における「主体的・対話的で深い学び」や令和答申[※]における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」といったキーワードをあらためて捉え直し、実践を重ねる中で授業改善の具体的なポイントを整理してきました。研究校の成果は、カンファレンス等で発信し、周知を図ってきたところです。

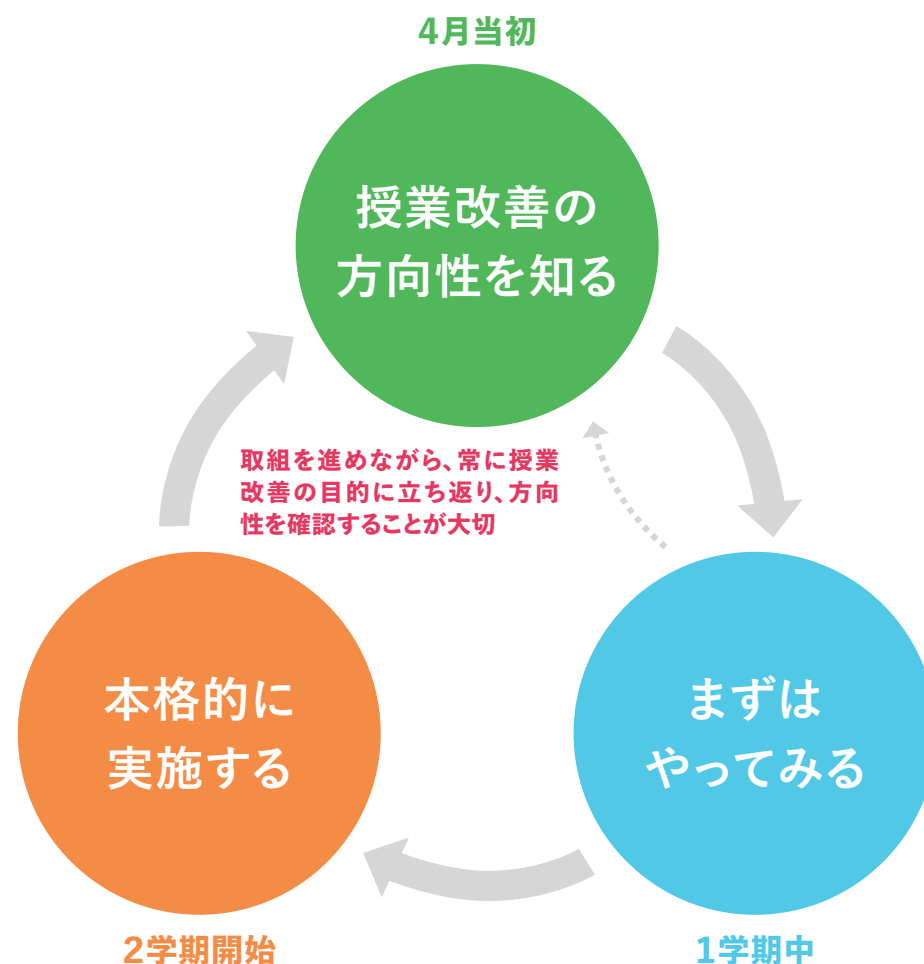
本ガイドブックは、これまでの様々な施策の成果を踏まえ、実際に授業改善に取り組む学校が何から取り組めば良いかを具体的に示したものです。教員一人一人が、まずは本資料で紹介する手法を取り入れ、実践し、自立した学習者の育成に向けた授業改善の第一歩を歩み出すことを期待しています。

なお、「教員が全てを教えなくては子供は学べない」「教師は知識の伝達者である」といった指導観を転換し、「教師が教える授業から真に子供が学ぶ授業」を実現するため、本ガイドブックでは「授業改善の方向性を知る」「まずはやってみる」「本格的に実施する」といった3段階で教師が取り組むことを整理しました。

初めてこの授業に取り組む教員が、2学期から本格的に実施することを想定し、年度開始から何を準備していけば良いかを解説しています。部分的にでも、取り入れられることから進めていきましょう。

※『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』(令和3年1月26日)

指導観を転換し、 授業改善に踏み出すための流れの例



授業改善の目的を理解する

授業改善をととして目指しているのは、子供たちの**自ら未来を切り拓く力の育成**です。ウェルビーイング(皆が幸せに生きられる社会)の実現に向け、デジタル基盤が前提の社会を生きる子供たちには、生涯に渡り自立的に学び続けることのできる力を身に付けることが求められています。そして、学校ではこうした力を育成するための授業づくりを行う必要があります。

東京都教育委員会では、「デジタルを活用したこれからの学び」を「東京都教育ビジョン(第5次)(令和6年3月)の施策展開②『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」に位置付け、授業改善の普及・啓発を進めていくことを示しています。また、「東京都学校教育情報化推進計画」(令和6年3月)においては、クラウドを活用した授業デザインやそのポイントを整理しています。

(東京都教育ビジョン第5次より抜粋)

柱1 自ら未来を切り拓く力の育成

基本的な方針1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育 施策展開の方向性② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

予測困難な時代において、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力を身に付けさせるため、教師が指導観を転換し、授業をデザインする必要があります。子供が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりについて研究を進め都内全公立学校での展開に向け、普及啓発を図ります。

(東京都学校教育情報化推進計画より抜粋)

1 学校教育の情報化を通じて目指す姿

(1) 目指す姿

すべての子供が将来への希望をもって、自ら伸び、育つ
～デジタルの力を活かして、一人ひとりの力を伸ばしていく～

変化の激しい社会において、子供たちには、生涯にわたって遭遇する課題や抱える悩みにしっかりと向き合い、能動的に解決しながら生きていこうとする姿勢が求められています。

この素地を養うため、学校においては、誰一人取り残さず、児童・生徒一人ひとりが自らの希望や意思に基づいて学び、自らの個性や能力を伸ばしていける教育が必要です。

そのために、都教育委員会は教員の知見とデジタルの力を最適に組み合わせる学び方・教え方を改革し、「デジタルを活用したこれからの学び」を研究・推進し、子供たちの主体的・対話的で深い学びの実現を図っていきます。

学校教員に求められる役割が拡大する中で、子供たち一人ひとりに向き合い、きめ細かい指導や支援を充実させるため、デジタルの力も活用し、教員の働き方改革を一層推進するとともに、技術革新や学校の実態を踏まえたより良いICT環境や推進体制の構築に取り組む続けます。

(2) デジタルを活用したこれからの学び

都教育委員会は、子供たち一人ひとりの力を伸ばしていくことを目指し、デジタルの力を活かして主体的・対話的で深い学びの実現を図るため「デジタルを活用したこれからの学び」を研究・推進しています。「デジタルを活用したこれからの学び」とは、新たな時代に対応した、これまでと大きく異なる授業の姿です。この基となるものは、令和3年の中央教育審議会答申の中で提唱された、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」として示された考え方です。ICTの積極的な活用や情報活用能力(次頁参照)の育成を重視している学習指導要領の趣旨や答申の考え方を踏まえ、目指すべき新しい時代の授業の姿として、「デジタルを活用したこれからの学び」に取り組み、全ての子供たちの可能性を引き出していきます。

(3) 情報活用能力について

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力です。学習指導要領においては、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられています。

都教育委員会では、情報活用能力育成の観点等をまとめた「情報活用能力 #東京モデル」を作成し、発達段階を踏まえた資質・能力の計画的な育成を図ります。

デジタルを活用する必要性を理解する

現代社会に生きる私たちは、仕事を行うことや日常生活を送る上でデジタル技術を抜きにしては考えられない社会に生きています。子供たちが将来生きる社会は、さらにデジタル化が進むことでしょう。現代的な諸課題を解決する次世代の人材を育成していくためには、主体的にデジタルを日常使いし、多様で大量の情報を扱わせるなどの授業を行うことが求められます。そのような授業を行い、子供たちの学びの個性化が進む中、教員はデジタルの力を使いながら、個々の子供の状況を見取るなど個別最適な学びを支援することが求められます。

授業改善を進める上で、デジタルを活用する意義

- (1) 多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤
 - ウェブ検索、各種編集ソフトによる資料作成、表計算ソフトによる統計処理やグラフ等の作成等
- (2) 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化
 - 編集・保存機能による学習のまとめ、写真・動画等による視聴・確認、撮影・保存等による観察記録の蓄積等
- (3) 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有
 - 共同編集機能による学び合い、アンケート機能による意見集約、遠隔交流



小学校2年生の終わりまでは、黒板の内容をノートに急いで書かないと間に合わないことがあったけれど、タブレットになってからはスムーズに学習を進められるようになりました。また、授業中に理解するのが間に合わなくても、家で進めることができるので、今までより学習するようになりました。

◆チャットを活用し、生徒が情報交換を行っている例

チャット1 教員の講義と並行して課題を提示

チャット	共有中	タスク
生徒	ユ	戦争や災害などの報道によって発行部数が増えるのはなぜですか？
		4月30日, 13:45
		情報を知らない大変なことになるからです。
		地震が起きたらまずテレビやスマホを見るのと一緒です！
		4月30日, 13:52
生徒	ユ	メディアに正しい情報があつたはずなのに関東大震災時に「朝鮮人が暴動を起こす」というのが広がったのはなぜですか？
		4月30日, 14:01
生徒	ユ	なぜ大正時代になると中学校、高等学校、大学が増設されたのですか？
		4月30日, 14:07

子供たちの疑問が生まれやすい単元です。疑問を即時にチャットに書き込ませることで、一人ひとりの学習課題の設定につなげることができます。**発言が苦手な生徒も参加できることや記録を残せるため、振り返りに活用できます。**

このようなデジタルの良さを生かし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていきます。

ICT活用の3つの特性・強み

① 多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤

例

可能となる学習活動

ウェブブラウザ
キーワード検索

文書作成ソフト等
発表資料の作成

表計算ソフト等
データを分析して考察

② 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化

例

可能となる学習活動

編集・保存機能
学習のまとめ等

写真や動画等
反復視聴・確認

撮影・保存機能
観察記録の蓄積

③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有

例

可能となる学習活動

共同編集機能
学び合い

アンケート機能
意見集約

ウェブ会議
遠隔交流

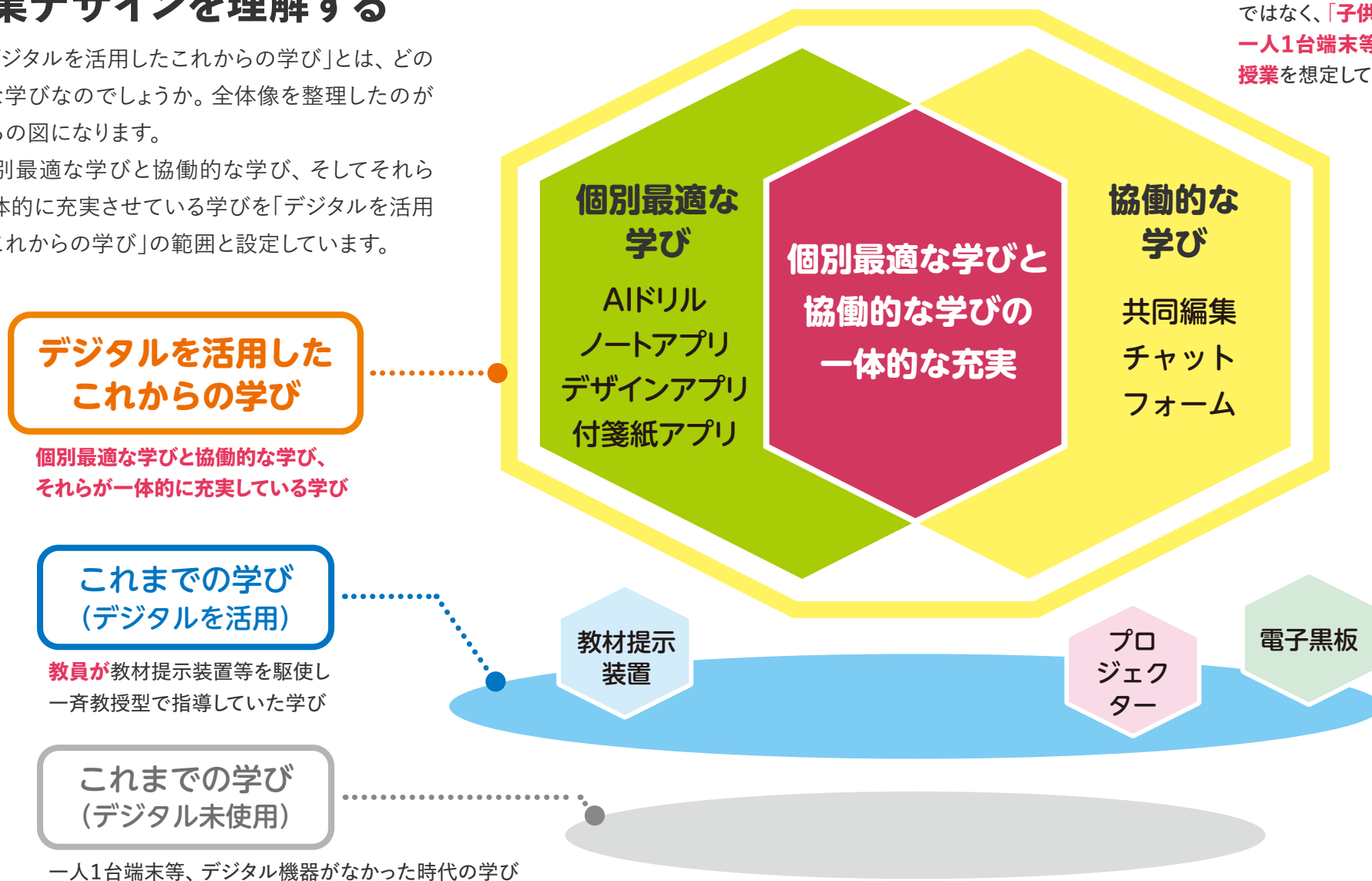
デジタルを活用したこれからの学びとは ①

これからの学びの 授業デザインを理解する

「デジタルを活用したこれからの学び」とは、どのような学びなのでしょうか。全体像を整理したのがこちらの図になります。

個別最適な学びと協働的な学び、そしてそれらを一体的に充実させている学びを「デジタルを活用したこれからの学び」の範囲と設定しています。

従来のデジタル機器等を「教員が」活用し指導する授業ではなく、「子供が」文具として一人1台端末等を活用し学ぶ授業を想定しています。



デジタルを活用したこれからの学びとは ②

個別最適な学びと協働的な学びにおけるデジタル活用について理解する

「個別最適な学び」と「協働的な学び」におけるデジタル活用の例は次のとおりです。従来行ってきた紙ベースの学びやデジタルを子供たちが選択・自己決定し、一人一人の子供に合った学びを実現することが重要です。**また、アプリ等を活用すれば良いということではありません。デジタルはあくまで学びのツールであり、授業のねらいを達成するための手段であることに留意しましょう。**

個別最適な 学び

- デジタルを活用しながら、子供一人一人の学習状況や興味・関心に応じて（学習の個性化）最適な学習内容や方法により行う学び
- 教員は個々の学習の進度・学習内容に応じて柔軟に指導（指導の個別化）

AIドリルで
基礎を習得

- ◆ AI技術により個々に最適化した問題を出題する
- ◆ 家庭学習等で活用する

ノートアプリ・デザインアプリで
情報を収集・整理

- ◆ 集めた情報を整理するときや考えをまとめる際に活用する

付箋紙アプリで
情報を整理・分析

オフィス系アプリで
情報を分析・まとめ

デジタルの活用

協働的な 学び

- デジタルを活用しながら、他者と協力して問題を解決する学び
- 探究的な学習や体験活動を通じて、他者と協力し、共に問題を解決する能力を育成

クラウド上で
共同編集

- ◆ グループで一つの作品を制作する

チャット

フォーム

投稿

- ◆ 意見の共有、アイデア出し、学級全体に質問・意思決定をする

デジタルの活用

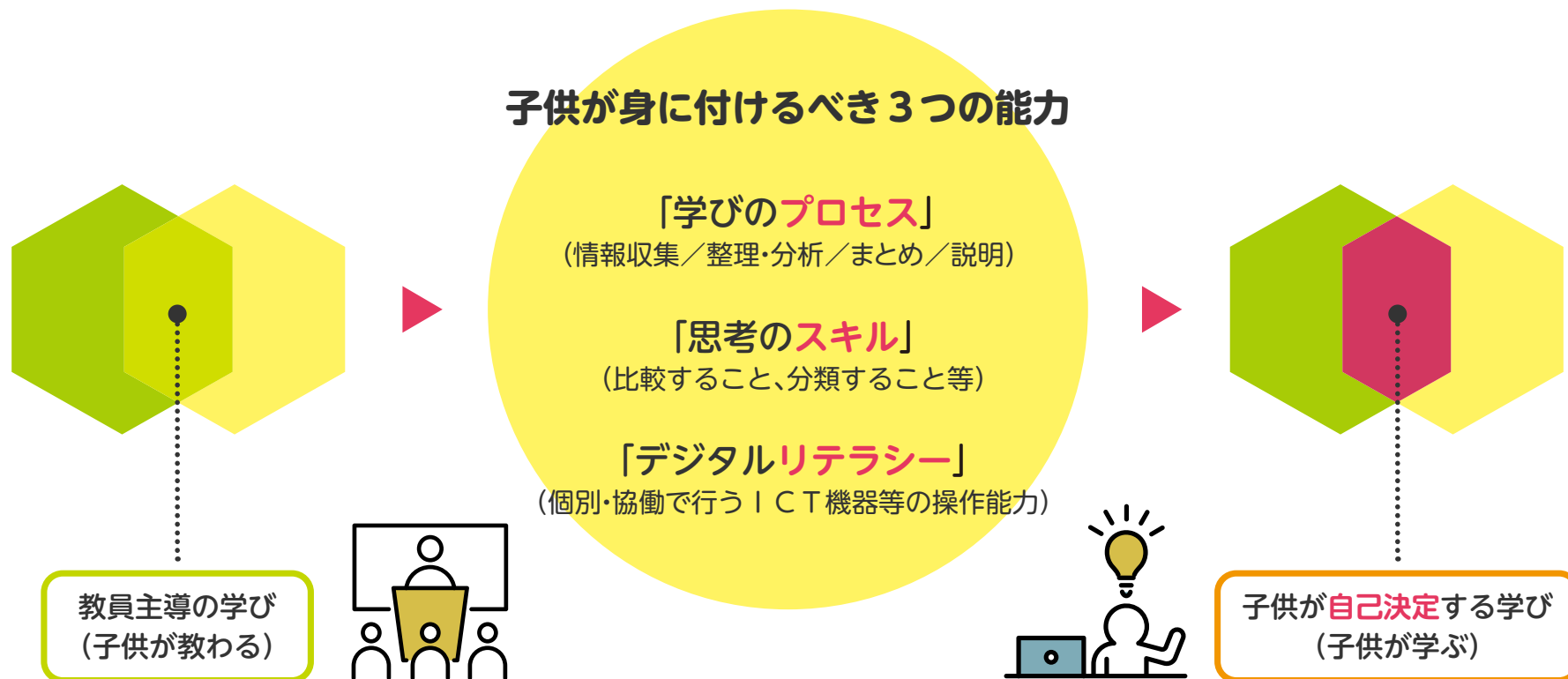
デジタルを活用したこれからの学びとは ③

デジタルを活用したこれからの学びが目指すものを理解する

最終的に目指す目標は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するとともに「子供が**自己決定する**学び」です。子供は、「学びのプロセス」「思考のスキル」「デジタルリテラシー」の3つの能力を発揮しながら、学習課題や学習方法を自己決定し、課題解決的な学びに取り組みます。

教員は、子供たちの3つの能力を伸ばすよう、授業において様々な**しかけ**を行うとともに、子供に学びを委ねつつ誰一人取り残さないための伴走役として支援します。

まずは、授業時間の**2割程度から少しずつ取り入れ**、子供が自己決定する場面を意図的・計画的に設定し、取り組んでみてほしいと考えています。



子供に3つの能力を身に付けさせ、児童・生徒が**自己決定**する学びを行う。

学びのプロセスを意識させる授業に取り組む

重点的に
支援する時期

4月

5月

6月

通年

1学期から、授業の中で「学びのプロセス」を意識させていく

児童・生徒が学習課題や学習方法を自己決定し、主体的に学ぶ授業を実現するために、年度初めから各教科等の授業において指導を重ねていきます。まず第一に必要なことは、**子供が学習の流れを理解することです**。1学期から各教科等の授業において、学びのプロセスが定着するよう、どのような活動を行うのかを丁寧に説明し、子供と共有します。

そのためには

- ⇒ 新年度の授業開始時に、学習の流れを丁寧に説明する。
- ⇒ 毎単元／毎時間の授業の冒頭で、教員が学びのプロセスを確認する。
- ⇒ 学習掲示物や端末のデスクトップ画像等を作成し提示する。
- ⇒ 学習計画に学びのプロセスを示す。



自分で計画を作りその目標に向かって学ぶという学習習慣は、自分のペースでできて情報をインプットした後にアウトプットすることができるのでとてもいいと思います。

学びのプロセス	子供の活動の具体(例)	各活動中の教師の支援例
見通しをもつ 学習課題の設定 学習計画の作成	課題を自己決定する。 事象と接した後、既習事項・知識を踏まえ、分からないこと、調べたいこと等を言語化する。	• 学びのガイダンスの実施(学期、単元、単位時間) • 子供の興味・関心を引き出す単元の導入の工夫 • 教材提示の工夫 • 他者参照できる環境構成 • 目指す授業の共有 目指したい資質・能力を子供に説明する。 自己決定する授業の進め方を説明する(各過程で何をするか、何をねらうか)。 学び方のプロセスの説明する(学びのシラバス、手引きの提供、学習掲示等)。 学習計画表を提供する。 • 個々の学習課題・学習計画の確認 • 個々の見取り・支援 (コーチング的言葉掛け／個別の指導) 等
	何を学ぶか、どのように学ぶか、何を使って学ぶかを自己決定する。 単元の計画表に記録する。	
活動する (情報収集／整理・分析 ／まとめ／説明)	自己の課題を解決するために必要な情報を集める。 教科書、資料集、副読本、問題集等から事実を取り出す。	
	収集した情報を比較・関連・総合させながら整理する。 事実をまとまりで集め、見出しを付ける。	
	課題に対する自分なりの答えを導き出す。 課題に正対し、分かったことを記述する。	
振り返り	他者に自分の考えを説明する／他者の説明を聞く。 各活動をブラッシュアップする。	
	自己の学びを客観的に見つめる。 何を学んだか、どのように学べたか、次にどのような学びにするかなど振り返り、記録する。	



1学期から、授業の中で「思考のスキル」を意識させていく

児童・生徒が自ら課題を設定し、学習方法を決め、学び進めるためには、思考を働かせる必要があります。学習方法としての「思考のスキル」を、児童・生徒が身に付けることができるよう、支援していきます。教科横断的に支援する必要があるため、学校全体で意図的・計画的に支援することが重要です。最終的には、教師が「この思考ツールを使って考えましょう」と一律に指示を出すのではなく、「どのように考えればよいか、ツールを選択してみましょう」と思考方法を児童・生徒が自己決定できるよう、支援していきます。

そのためには

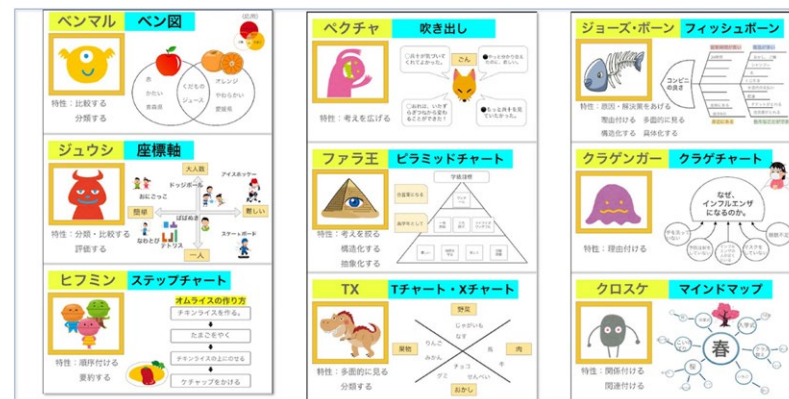
- ⇒ 各教科等の学習において、学習課題の設定場面、学習計画を立てる場面、収集した情報の整理・分析を行う場面等で、思考ツールを自己選択できるよう提示する。
- ⇒ 児童・生徒の思考のスキルの定着度等を教員間で情報共有する。



自分で考えるこの授業のほうが黒板に書いてあることをノートに写して問題を解くより、頭の中に入ると感じます。まとめる力や調べる力、計画を立てる力を身に付けることができたと思いました。



『デジタルを活用したこれからの学びの提案』より



イラストを使いながら思考ツールを児童に紹介した例 学習掲示物として、壁面等に常時掲示

ポイント

- 各教科等の学習に共通する思考のスキルについて、子供が学習で実際に使う言葉を例示しながら説明する。
- 学びのシラバス、手引き等を作成し、子供が自分のタイミングで確認できるよう支援する。
- 学習が停滞している子供やさらに発展的に学ぶ子供など、個々の学習状況に応じて適切に助言する。

分類する

「似ているものを集めて、タイトルを付けると…」
「キーワードごとに整理すると…」

理由付ける

「～考える理由は…」
「もし～なら、～になります。」

具体化する

「～を具体的に言うと…」

関連付ける

「～と～を結び付けて考えると、」
「～と～の関係は、」

見通す

「～を解決するには、…」
「～だとすれば、～」

抽象化する(総合)

「～と～から分かることは…」「これらをまとめると…」

多面的に見る

「～の視点から考えると…」
(様々な側面から考える)

多角的に見る

「～の立場から考えると…」
(異なった立場から考える)

構造化する

「～を整理すると、…」

子供が学習の中で使う言葉とともに思考方法の具体を提示している例

1学期から、デジタルの日常使いに取り組ませていく

多様な学びを展開できるようになる面や学習効率を上げる面などから、デジタルを**児童・生徒自身が使いこなす**学び進めることができるよう、授業をデザインする必要があります。教師が「〇〇のアプリを開きましょう」といった指示を出すのではなく、「**自分でアプリを選んで学習を進めましょう**」など、子供が自己の学びに合わせてアプリ等を選択する場面を用意しましょう。

そのためには

- ⇒ 情報収集、情報共有、共同編集等のアプリの操作方法を身に付けさせる。
- ⇒ チャット等を活用し、情報共有する仕組みをつくり、子供と共有する。



僕はタブレットで資料を集めたり調べたりして知識を定着させました。今までの学習と比べたらタブレットでやっている方が楽しいし便利だし、説明するときに分かりやすくなるので、今の学習は最適だと思っています。

グループチャットの学習利用

「人前で話すことが苦手な子も話合いに入れてあげたい」「話合いは活発になってきたけど、記録が十分に取れておらず、前の人の発言も生かしていない」といった悩みをもつ先生もいらっしゃると思います。学習活動の中で、疑問を即時にチャットに書き込ませることで、子供が参加することができると同時に、記録を残すことができます。チャットの活用により、自ら学ぶ機会が広がります。ぜひ試してみてください。『学びのアップデート』第22号参照

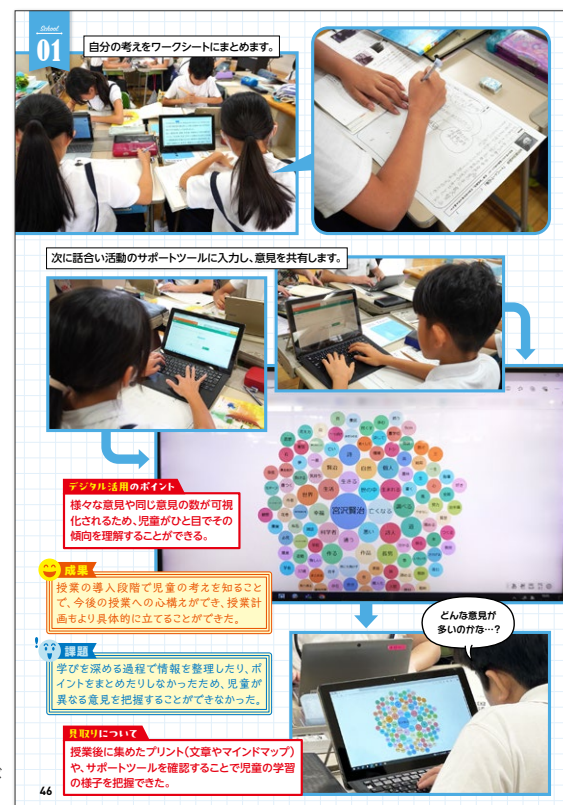
<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/file/2c5ad49d04aecad9f16ab65e4f2c66a7.pdf>

ポイント

- ・一人1台端末の活用を大前提に授業をデザインする。
- ・様々なアプリを使う経験を蓄積し、機能や使いどころを子供自身がつかむことができるよう、指導を計画する。
- ・子供自身が、活動のゴールを意識し、どのアプリをどのように使い学びを進めるかを自己決定する(紙ベースでの学び全てを否定するのではないが、デジタルを活用する良さを理解できるよう指導する必要がある)。

特別なアプリがなくても、基本的なツール(Microsoft Teams、Google Classroom等)を活用することで、クラウドベースの学びが実現可能です。

デジタルブック『デジタルを活用したこれからの学び Tokyo LEARNING STYLE』より



1学期から、一人で学ぶか友達と学ぶかを考えさせる

子供が「だれと学ぶか」を自己決定することも、自ら学びを進める上で重要な要素です。

教師が学習する班を決めてグループ学習を進めるのではなく、自分の学びを進める上で必要となる人を選択し、協働することができるよう授業をデザインします。

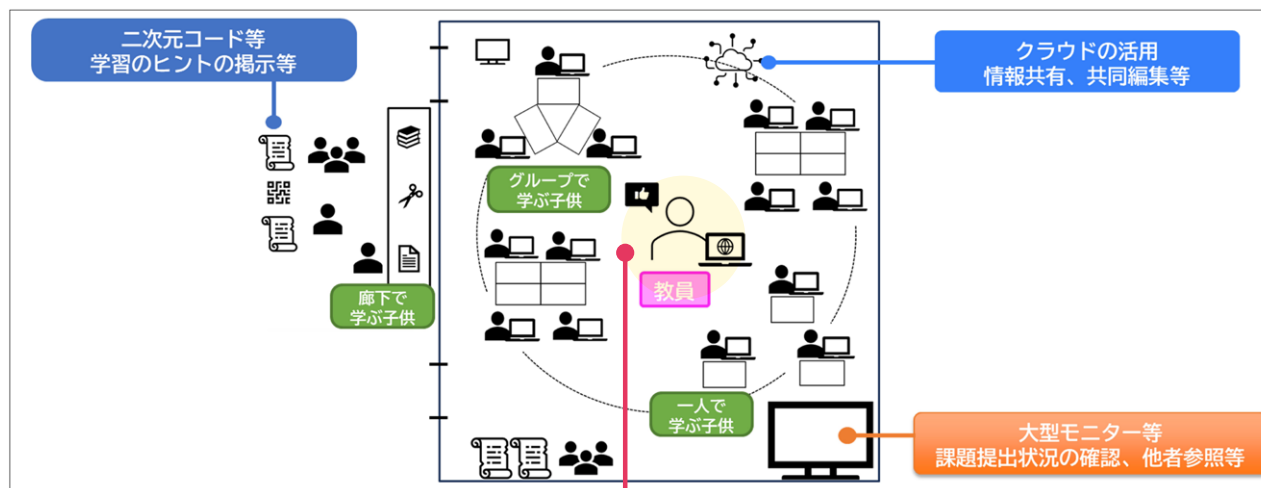
初めの内は、コミュニケーションを取りやすい友達同士で集まる状況も見られると思います。単に「班で話し合いましょう。」と指示を出すのではなく、「自分の考えを広げたり深めたりするために、ペアやグループを作って協議しましょう」など、学び合う意味を理解させるとともに、学習形態を自己決定させていくことが大切です。

そのためには

- ⇒ 学習の場を自由に設定して良いことを伝える。
(一人で学ぶ、ペアで学ぶ、グループで学ぶ)
- ⇒ 課題解決のための資料やヒントを教室や廊下に用意する。
- ⇒ 子供の学習状況等を随時確認することができるよう大型モニターや教員の端末等を用意する。

ポイント

- ・友達と協働することの意味について、子供に丁寧に説明する。
- ・ペア、グループ等における学び方を提示し、継続して指導する。
- ・子供が誰と学ぶかを自己決定する場面を授業内に設定する。
- ・自由に協働できる学習環境を設定する。様々な場所で様々な相手と学ぶ子供を、一人一人把握するための方法を工夫すること。また、**学びのグループが自然発生的にできあがるよう、日常的に“しかけ”を積み上げること。**



協働相手を自己決定できるよう、学びの場を設定

教師の 立ち位置

- 端末を活用し、学習の場を周り、一人一人の学びの状況を把握する。
- 個々の見取りと支援を徹底する。



自分の計画の中で、仲間と学習したり一人で学習したりするので、見通しをもって学ぶ力がとてもきたえられました。
また、分からないところは仲間に聞くことで理解できるようになるし、仲間に教えることで説明力もつくので、今の学習方法は良いと思います。



1学期から、自分で学び進めることを意識させていく

教員による一斉一律講義型の授業だけでは、子供たちはどうしても受け身の学習となりがちです。また、すでに学習内容を理解している子供は退屈し、理解できていない子供は置いていかれるといった状況が生まれます。まず、子供が学習の主体者となる授業を展開するためには、教師による講義・講演の時間をできるだけ減らし、一人一人を丁寧に見取ることができる授業を展開する必要があります。

もちろん、教員が一斉に指導する場面が全てなくなるわけではありません。一斉一律講義型の指導を行うことで効率良く伝達できる場面もあります。学ぶ意義や学習方法を伝える場面や、安全指導を行う場面、小集団における学習指導等、指導の場面を絞り、子供が調べ考える時間を最大限確保することが重要です。

そのためには

- ⇒ 単元又は1単位時間の学習内容に関心をもたせるとともに、疑問を引き出し、問いをつくることのできるよう教材を提示する。
- ⇒ 教員の指示、説明・解説等は最小限とし、必要な児童に対してのみ行う。
- ⇒ 学びの手引きや板書等で、活動の流れ等を明確に示した上で、子供に学習を委ねる。



最初はどのような流れで学べばいいのか分からずとても難しかったけれど、最近は計画を立てて学べるようになりました。友達とも学習方法や考えを共有できるし自分の力で学ぶというのが自主学習にも役に立ったからとても良いと感じています。

教員の声

「デジタルを活用したこれからの学び」の授業をと
おして、生徒に大きな変化がありました。生徒は、自
分に合った学習方法で学びを進めたいのだと改
めて分かりました。



ポイント

- 教員による全体指示、説明の時間を最小にし、子供が個々の学びを意欲的に進めることができる授業をイメージする。
- 教員は、個々の学びを見取り、一人一人を適切に支援する。
- まずは、1単位時間の中で子供たちが学びを進めることのできる場面を設定。慣れてきたら単元のまとまりの中で、数時間を委ねる。

ただ、教材に取り組ませる「自習」ではない。また、子供を「放任」するものでもない。

教員の声

準備は大変ですが、やってみると児童が生き生き
と楽しそうに学習する姿を見ることがあるので、
すぐに「やって良かったな」と感じると思います。



児童・生徒の学習状況を一人1台端末で把握する授業に取り組む

1学期から、他者参照し学び進めることを意識させていく

児童・生徒が今どのような状況で学び進めているかを把握することは、個別の支援を充実させるためにも重要です。

誰と学ぶか、どのように学ぶかなど、子供が自己決定した学び方をクラウド上で閲覧・共有できるようにシートを準備するといった取組が考えられます。教員は、タブレット端末等を活用しながら効率良く子供たちの学習状況の情報を収集し、分析し、必要となる支援を必要なタイミングで行っていきます。

そのためには

- ⇒ 学習課題、学習計画、学習方法等を記入する学習計画表を作成し、共有する。
- ⇒ 作成した学習計画表は、誰もが参照できるよう設定する。



これまでは、全て先生に教えてもらっていたから自分で学習を進める力があまりなかったと思います。今は計画的に自分で学習することができるようになりました。ただ、時々先生が助けてくれる方が勉強しやすいです。

ポイント

- 年度当初、タブレット端末上で、子供の学習状況を効率良く見取ることができるようシート等を準備する。
- 学習状況を友達や教員と共有し、分からないことや困ったことがあった時は他者参照や、友達との協働により解決することを学習のルールとして設定する。
- 学習に苦手意識がある子供などに対しては、丁寧に学習内容を解説するなど個別支援を実施する。

重点的に
支援する時期

4月

5月

6月

通年

2年 算数「ひっ算のしかたを考えよう」学しゅうの学びき&ふりかえり

2年 組 番 名前 ()

【学しゅう前】ひっ算のしかたを考えたか？

【学しゅう中】

【ふりかえりポイント！】

① 自分に合った学しゅうのりょうやしかたをえらべましたか？

② その日の学しゅうの大切なことは分りましたか？

③ 分かったことを ことばやし、図であらわしましたか？

番号	学しゅう内容	教科書	目標	できた？	ふりかえり
1	たすじゆんじふ算をえらぶと、答えはどうなるかしらよう？	P.12	2 もん	① ○ ② △ ③ ○	
2	しきを見てどのように考えたのかを話したり、せつめいしよう？	P.12	3 もん	① ○ ② △ ③ ○	
3	★かくにんテスト①を行う	P.12	4 もん	① ○ ② △ ③ ○	
4	① 数をよく見て、たし算のしかたをくふうしよう？	P.12	5 もん	① ○ ② △ ③ ○	
5	② 数をよく見て、ひき算のしかたをくふうしよう？	P.12	6 もん	① ○ ② △ ③ ○	
6	★かくにんテスト②を行う	P.12	7 もん	① ○ ② △ ③ ○	
7	① 計算のきまりをきかして、正しく計算しよう？	P.12	8 もん	① ○ ② △ ③ ○	
8	② () 使ってしきであらわそう？	P.12	9 もん	① ○ ② △ ③ ○	

子供が自己決定した学び方を把握するためのシート例

番号	「問いを考えて書く」のは、どう進める？ (こつこつ・ぐんぐん)	調べたことを書くのは、どう進める？ (こつこつ・ぐんぐん)	答えを考えて書くのは、どう進める？ (こつこつ・ぐんぐん)	「自分の考え」を書くのは、どう進める？ (ぐんぐん)
1	友達と	友達と	友達と	友達と
2	友達と	友達と	友達と	友達と
3	1人で	1人で	1人で	1人で
4	先生と	先生と		
5	友達と	友達と	友達と	友達と
6	友達と	友達と	友達と	友達と
7	1人で	1人で	1人で	
8	1人で	1人で	1人で	1人で
9	1人で	1人で	1人で	
10	1人で		1人で	
11	1人で	1人で	1人で	1人で
12	先生と			

学習状況を把握するための表示シート例

1学期から、学びを自己調整することを意識させていく

より良い学びを進めるためには、子供自身が自己の学びを客観的に見つめ、学びを自己調整していくための「振り返り」が重要です。

そして、「振り返り」を行うためには、子供たちに振り返る視点を明確に示す必要があります。

児童・生徒は、教師が提示した視点に沿って、その時間その単元における学びが、自分にとってどのような意味をもつのかを価値付けるとともに、次時にどのように学ぶかを考えていきます。「学習の感想を書きましょう」と指示を出すのではなく、「分かった／分からないことは何か、また、どうして分かったか／分からなかったのかを振り返りましょう」と児童・生徒に伝え、学習内容とともに学習方法も振り返らせていきましょう。

そのためには

⇒ 振り返りシートを用意する。

(学習計画表の一部に振り返り記入欄を作る形式もある)

⇒ 何を、どのように学べたか、次にどこまで学ぶかを振り返ることができるように支援する。

また、自己の学びの振り返りに加え、活動中に見付けた仲間の良い学びについて記入できるようにすると協働がより活性化する。

⇒ 各教科等の単元、又は1単位時間の評価規準を子供に示す。



自分で計画を作り、自分で決めた目標に向かって学ぶという習慣は大切だと思います。また、自分のペースで情報をインプット・アウトプットすることができるのは、とても良いです。

ポイント

- 授業のねらいに沿った評価規準を子供に分かりやすく提示し、学習内容を振り返ることができるよう支援する。
- 個々の振り返りは、教員や友達が参照したりコメントしたりすることが可能なようにシートを作成する。
- 自己評価だけでなく、子供同士の相互評価にも活用する。
- 教科の評価規準を教師だけのものにせず、子供にも開示し、共有することで、ねらいからぶれない活動を実現する。

選んで学習の進め方

最強教科書の URL を自由進度表にコピーする。

1. 問題と予想を確認する。
2. だれと学ぶかを決める。
3. 教科書の文章と資料を矢印で結ぶ。
4. 最強教科書を作る。
 - ①ふせんを書く。(ふせんに書くことは短く。ふせんの量はたくさん。)
 - ②ふせんを整理する。(共通点を見つけて同じ場所にまとめる。)
 - ③キーワードを書く。(共通点をキーワードとする。)
5. ふりかえりを書く。
 - ①キーワードを使って、問題の答えを書く。
 - ②予想通りだったかを書く。
 - ③思ったこと、考えたことを書く。

終わった人は、本やインターネットで調べ、最強教科書のふせんを増やす。教科書にはのっていない情報もせて、自分たちだけの教科書を作ろう!!

ふりかえりの評価ポイント

A 評価 ①問題の答え ②予想通りだったか ③思ったこと・考えたこと

B 評価 ①問題の答え ②予想通りだったか

C 評価 問題の答えが書けない。

「③思ったこと・考えたこと」に、これまでの学習と似ていることや自分の生活と学習したことを比べて考えたことを書いた人はA+評価。

振り返りの視点を示している例

子供に学びを委ね、子供が自己決定する授業を推進する

授業改善の取組を統合し、子供の学びをデザインする

始めのうちは、教科のねらいから外れた活動になってしまったり、個々を見取り切れず適切に支援することができなかつたりすることも出てきますが、授業のスタイルが浸透していくにつれ、子供も教師もコツを掴んでいきます。「子供から、より良い授業にするための提案があった」「教員が信頼してくれているのを感じ、頑張っている」と生徒から声が挙がっている」など、先進的に進める学校からは感想が挙がっています。

まずは、教員目線の「導入」「展開」「まとめ」から、子供目線の「見通し」「活動」「振り返り」に意識を切り替えてみましょう。教師がいなかったとしても子供が授業を自分で進めている状況を実現するためには、どのような“しかけ”が必要になるか考え、現在の子供たちの実態を踏まえ工夫していきましょう。次のページからは、1単位時間での取組例や研究校等における実践事例を紹介していきます。

学びのプロセスを
意識させる授業

班ではなく自由に
協働相手を選べる授業

(デジタルリテラシー)アプリ等を
自由に選択できる授業

思考のスキルを
身に付ける授業

子供が自己決定する授業

教員の一言講義型
ではない授業

子供が自己の学びを振り返る
場面を設定した授業

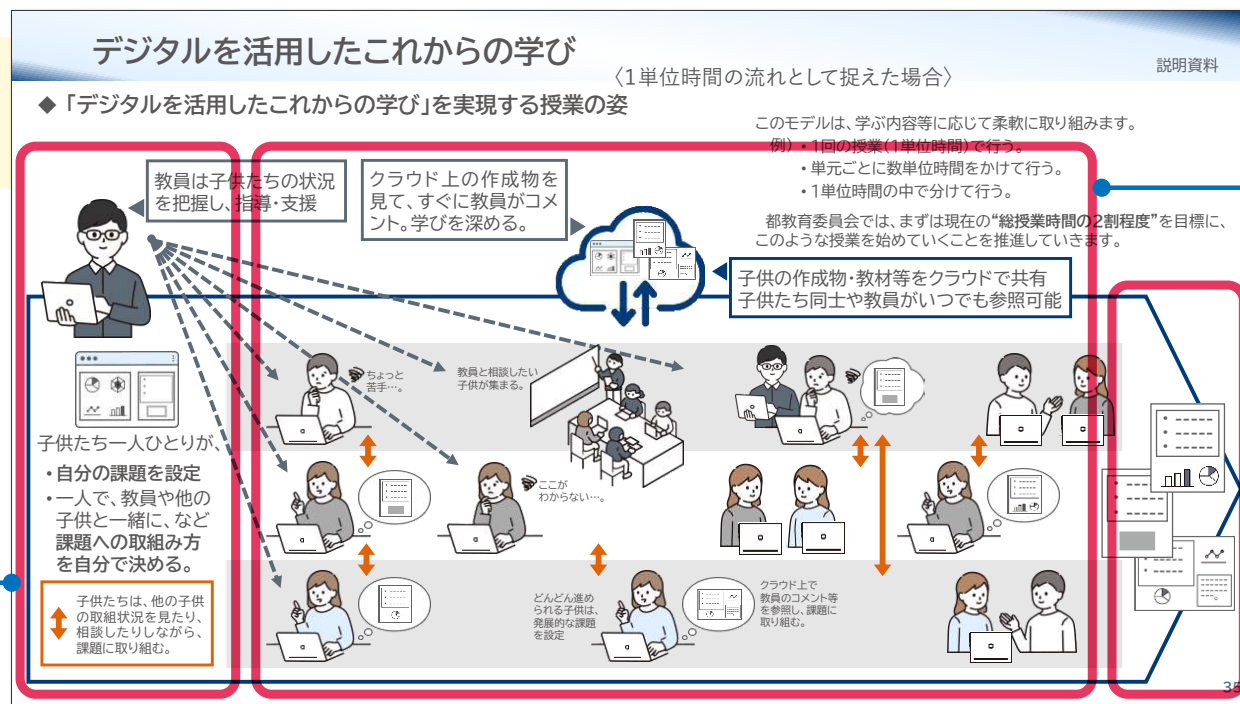
児童・生徒の学習状況を
一人1台端末で把握する授業

「子供に学びを委ねる」 実践事例

イメージがもてない場合は、**まずは1単位時間の中で**子供が自分で学びを進める場面を設定するところから始めてみましょう。

まずはここから…

1時間単位における支援例①
授業の開始時



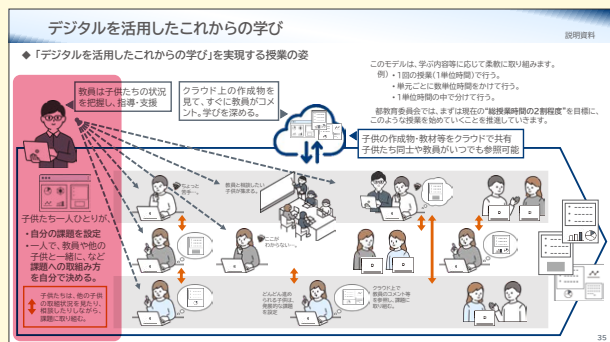
『東京都学校教育情報化推進計画説明資料（令和6年3月）』より抜粋



1単位時間における支援の例 ①

まずは、1単位時間の中で子供に学びを委ねる場面を作っていくことから始めてみましょう。
慣れてきたら、単元のまとまりの中で子供に委ねる場面を作っていくなど、さらに取組を進めましょう。

1単位時間の「見通す」場面



授業の開始時における支援

教員は、本時の学習で何を学ぶか、どのように学ぶかを確認するよう言葉掛けします。
子供は、自分の学習課題、本時の流れを確認します。

単元途中の場合は、授業開始時に前時の振り返りを基に学習計画を見直すなど、学びを自己調整する時間を取ることも有効です。すでに学習計画があり、児童・生徒が学び出せる状況にある場合は、教師の一斉指示・説明は極力最小限にし、速やかに活動に入ることが重要です。

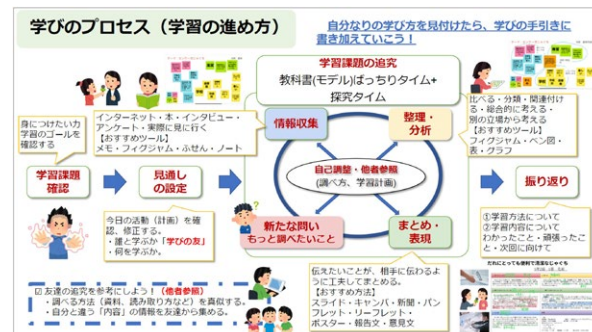
なお、一斉一律の講義型指導ではないため、教室前面の黒板やホワイトボードの機能も変わってきます。
黒板・ホワイトボードの活用例

- 今、何を調べているかを共有するため、自分がどの学習段階(プロセス)にいるか、氏名マグネットを貼る。
- 学習の流れやポイント等の情報を提示する。
- 教員による個別指導のコーナーとして利用する。

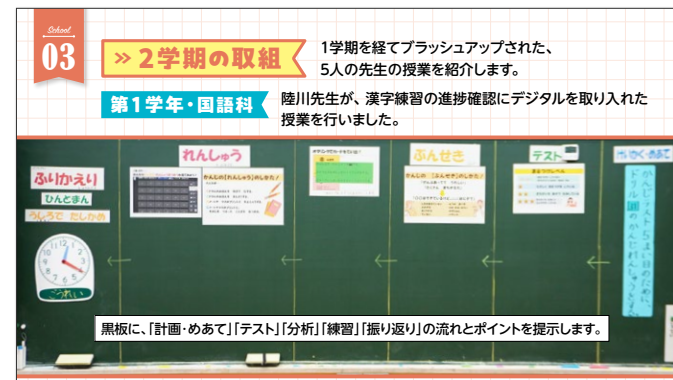
授業前の準備

子供が自分で学習を進められるよう、学びの手引きや学習計画表等を準備しクラウド上に保存。

主人公の変化を読み取り、考えたことを伝え合おう。「たずねびと」朽木祥			
身に付けた力	①主人公の変化を読み取る力 ②表現の工夫を見付け、効果を考える力	5年 組 番 名	
学習計画	時間	学習方法	チェック
1	全体	学習に見通しをもち、転換を促す。	
2	全体	物語の設定を読み取る。	
3			
4			
5			
6	全体	読者の変化について、考えたことを伝え合おう。	

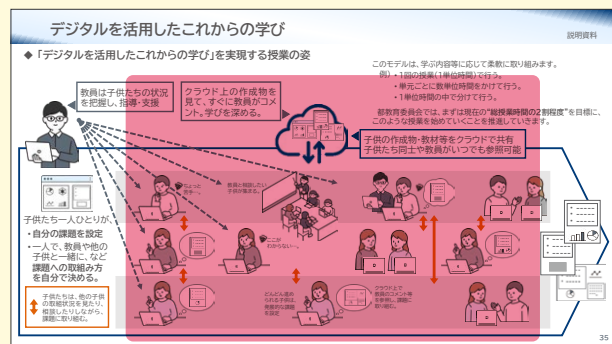


◆黒板に活動の見通しを示している例



1単位時間における支援の例 ②

1単位時間の「活動」場面



授業の中盤における支援

教師は、子供一人ひとりの学習の進捗状況を見取り、確認するとともに、必要に応じて支援を行います。
教師が子供を見取る際には、次のようなポイントが考えられます。

見取りのポイント

▶学習が停滞していないか。

学習内容を終えてしまっている。
学習が分からず止まってしまっている。

教師がやること・やらないこと

- 個々を見取り、学習が停滞している子供を見付ける。
- ✕子供の思考を止める。

支援の例

- ◆発展的な課題の提示、思考を深める発問等をする。
- ◆個別指導・グループ指導等をする。

▶教科のねらいを達成できているか。

学習がねらいから反れているしまっている。
教科のねらいを高度に達成できる可能性がある。

- 学習が停滞している子供を支援する。
- ✕教師側の文脈で学習を強制する。

▶「孤立した学び」となっていないか。

協働の必要性を感じていない。
友達と協働したいが、できないでいる。

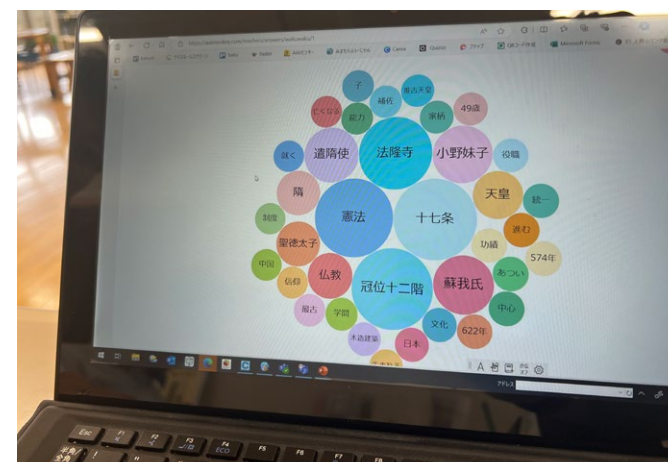
- 個々の学びを結び付ける。
- ✕子供を放置する。

- ◆グループチャット等も活用し、思考等を広げる支援をする。
- ◆他者との協働を促す言葉掛けをする。

子供のよい学びを学級全体に還元する意味合いから、「一回、手を止めて話を聞いてください」と教師が言葉掛けをすることがあります。この時、自分のペースで学んでいた子供は、思考が止まってしまう。指示や説明、解説等は、必要な子供だけを対象に必要最小限で行います。



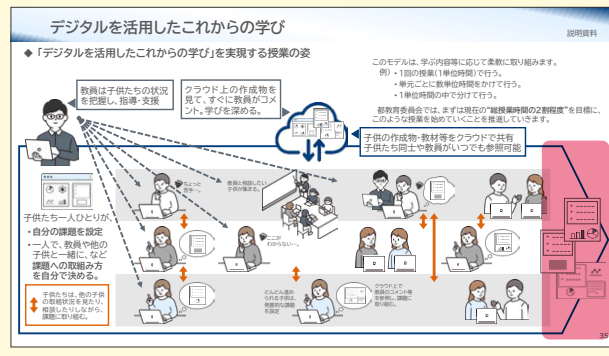
個々の学習状況はクラウド上で確認し、支援に活用する



子供は一人1台端末を自由に活用し、課題解決する

1単位時間における支援の例 ③

1単位時間の「振り返り」場面



「ふりかえりシート」の例

単元の評価規準に即した自己評価、学びのプロセスの状況、振り返り(何を学んだか、どのように学べたか)を子供が記入

出席番号	6		9
名前			
テーマ	インクルーシブ公園		バリアフリー おもちゃ
集めた情報を、分類したり関連づけたりして整理した。【知識技能】	A	B	
相手や目的に応じて情報を整理し、工夫して振り返りを書いた。【思考・判断・表現】	A	A	
計画を立て、振り返り活動することができた。【態度】	A	A	
今日の学習のプロセス(多かったもの)	まとめ・表現		整理・分析
何人の人と交流しましたか?	0	0	
ふりかえり ①学習方法(計画ややり方について) ②学習内容(今日の学習でわかったことや気づいたこと、工夫したこと、次はどんな学習をしたいか、など)	今日は、1人でやりました。前回とちがって、交流できなかったのが反省点だと思います。交流すると、自分の視野も広がるので、次回は一人でも多くの友達と交流できるように頑張りたいです。 また、今日は昨日、調べたことを更に詳しく調べました。そして、主に報告文を書きはじめることができました。また、調べた情報を整理分析すると、似た内容をまとめることもできて、この単元を通して身につける「集めた情報を分類したり関連づけたりして整理する力」を少しずつ身につけてきているように感じています。次回は、報告文に書く内容を完璧にまとめ終わって、報告文を書き進めていきたいです。また、報告文を書く途中でつまづいてしまったら、きちんと調べて、読み手に伝わりやすい文を書きたいです。また、友達と交流して客観的にみた意見も知りたいと思います。		
文字数	364	359	

授業の終盤における支援

教師は、児童・生徒一人ひとりの学習の振り返りを確認するとともに、必要に応じてコメントを送る、言葉掛けするなどの支援を行います。児童・生徒は、その時間に何を学べたか、どのように学べたかを振り返り記録します。ここでは、お互いの学びを認め合い、より充実した協働を促すため、コメントを送り合うことができるようにするなどの工夫もできるようになります。

協働的な学びが充実してくると、自己の学びの振り返りに加え、仲間の良い学びに着目し生かしていこうとする振り返りも見られるようになります。

児童・生徒の実際の振り返りの記述とポイント

(児童の記述例)第6学年社会科「日本の歴史 新しい日本、平和な日本へ」7/7時間目

今日は、学習問題に対する自分なりの答えを整理した。戦後の日本は、日本国憲法の制定や様々な改革を行い、平和で民主的な国家として出発し、国際連合にも加盟した。その後も国民の努力によって生活が向上し、東京オリンピック・パラリンピックを開催するなど、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが良く分かった。

情報収集では、Aさんが新聞記事を集めていたアジア初となる東京オリンピックの当時の情報を自分の年表に取り入れ、調べを追加することができた。また、Bさんの「より良い社会をつくるために、多くの人たちがこれまで生きてきた。現代に生きる私たちも様々な問題を解決しながら、より良い世界をつくっていきたい。」といった感想がとても心に残ったので、自分のまとめにも取り入れた。仲間の学びを参照し、情報を追加したり、考えを深めたりすることができたのは良かった。

人々の命が繋がって、今の自分がある。また、自分が生きているのも歴史の一部である。過去に学びながら、これからについて考えていくことが大切だと思った。

何を学んだか、何を理解することができたか
(教科のねらいに対する振り返り)

どのように学んだか、身に付いた学び方は何か
(学習方法に対する振り返り)

今後の学習に、どのように取り組むか
(「学ぶこと」に対する振り返り)

実践例紹介① 児童・生徒が学習方法を身に付けるための支援の例

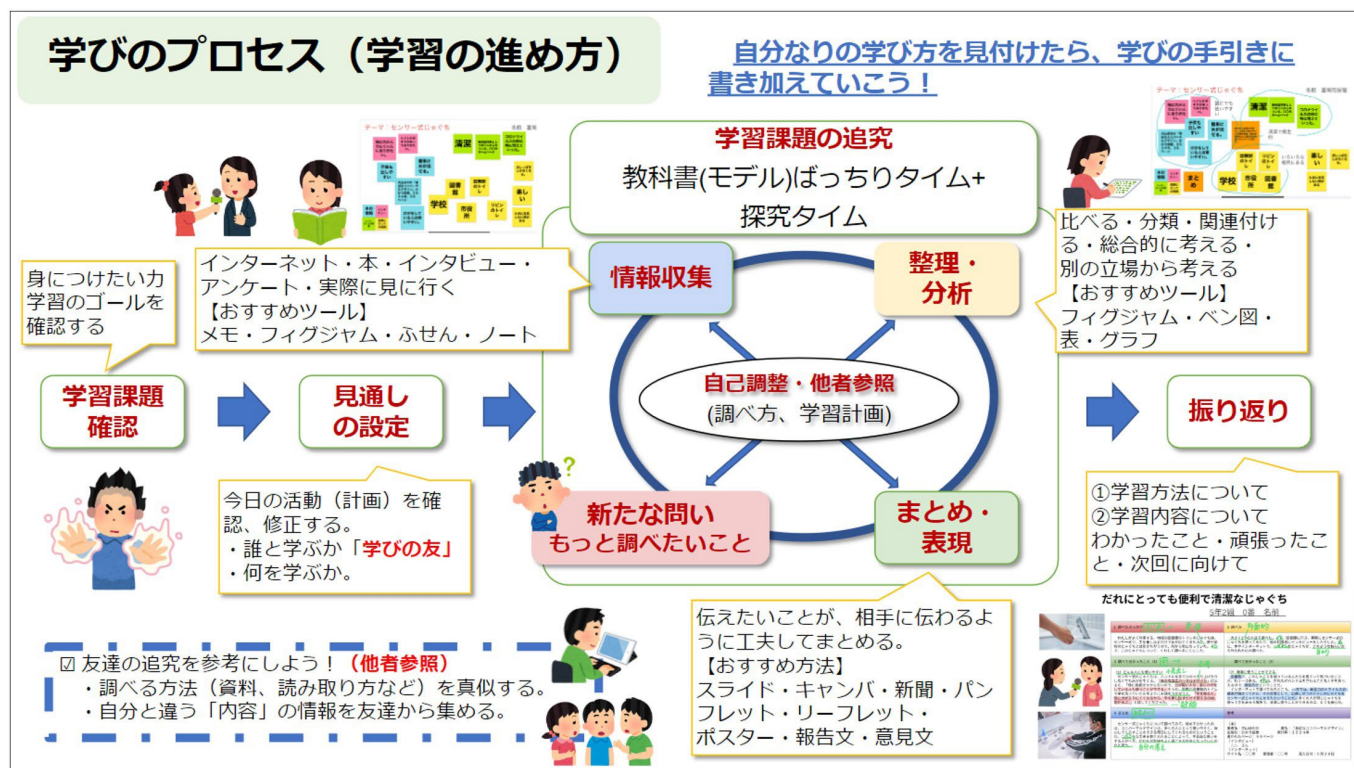
「デジタルを活用したこれからの学び」に、すでに取り組んでいる学校があります。

ここでは、令和6年度デジタルを活用したこれからの学び研究校や先進的に取り組む学校の実践事例を紹介します。

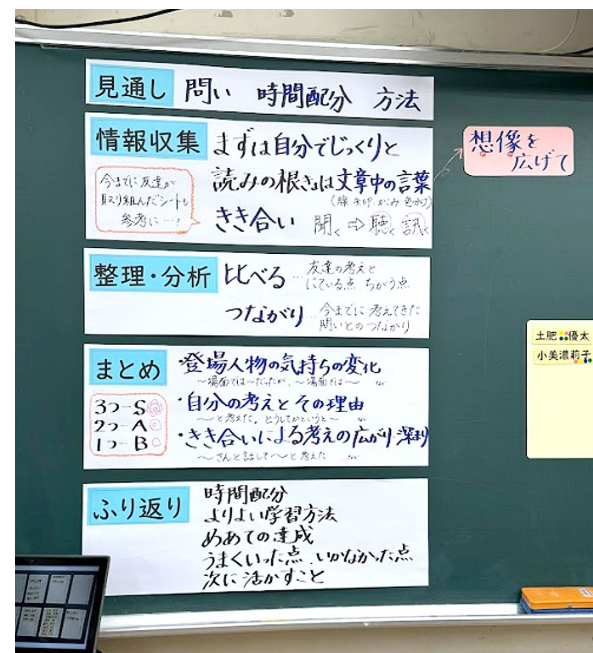
学びのプロセスを定着させるための学習掲示等

学習方法を児童・生徒に身に付けさせるためには、分かりやすく説明するとともに、繰り返し取り組むことが大切です。

学びのプロセスについてイラストを使いながら説明する資料を配布している学校や、黒板に常時学び方を掲示している学校があります。



学習の進め方を子供に説明し、子供が授業デザインを理解できるよう工夫している例



黒板に単元における学び方を常に掲示

子供が学ぶ場所を自己決定できる授業デザイン

児童・生徒が、自己の学習計画に従って、誰と学ぶか、どのように学ぶかを自己決定することが大切です。学級の壁をなくし、学年全体で授業を実施し、一人一人がそれぞれの学習方法で学ぶスタイルの授業を進める学校があります。

一人で学ぶ児童もいれば、ペア、グループで学ぶ児童もいる状況です。また、先生と学ぶといった選択をしている児童もいます。教師は、思い思いの場所で学ぶ児童をデジタルも活用しながら見取り、個別に支援しています。

School

01

「より良い変化を起こそうとする子供たち」を育てる
「デジタルを活用したこれからの学び」の姿とは？

台東区立上野小学校

台東区立上野小学校は、明治からの歴史をもつ下谷小学校と清島小学校が統合され、平成2(1990)年に開校しました。オープン構造の教室を生かしながら、デジタルを活用した授業デザインや、児童が自ら考え、主体的に学ぶ教育を推進しています。

小学校



同小学校の第6学年の国語科で実践された「デジタルを活用したこれからの学び」の授業は、2クラス合同で授業が進行しました。2人の教員が連携して授業を進め、リアルタイムで情報を共有できることが大きなメリットとなります。



6年1組

6年2組

児童は話しやすい友達と一緒に勉強したり、学級の枠を越えて友達に相談したり。学習の目標に合わせて自分で学ぶ仲間を選ぶ仕組みが整っています。



学ぶ場所も自分の席ではなく、教室の好きな場所で取り組むこともあります。





児童が自ら考え、主体的に学べる授業を実現するために、デジタル技術を積極的に活用しています。

42



43

デジタルブック
『デジタルを活用したこれからの学び
Tokyo LEARNING STYLE』より

学びの手引、学習計画表の作成

本単元・本時の学習で何を身に付けてほしいのかを共有するために、児童・生徒に学びの手引きを提示している学校があります。教師は、何をどのように学ぶかを自分で計画するための学習計画表を提供しています。取組を始めたばかりの頃は、ある程度教員が学習計画を示し、学習計画の立て方を児童・生徒が理解できるよう支援することも有効です。

学びの手引、学習計画表の作成

単元で身に付けたい力
単元のねらい

単元・題材名

学習内容・活動

主人公の変化を読み取り、考えたことを伝え合おう。「たずねびと」朽木祥		
身に付けたい力	①主人公の変化を読み取る力	5年組番名前
	②表現の工夫を見付け、効果を考える力	
学習計画		
時間	学習方法	
1	全体で	学習に見通しもち、範読を聞こう。
2	全体	物語の設定を読み取ろう。
3		
4		
5		
6	全体	綾の変化について、考えたことを伝え合おう。

やることリスト	チェック
1 綾の変化を読み取る。 ・綾の行動〔青〕や気持ち〔水色〕の分かる文章にサインを引く。 ・場面ごとに綾の心情を読み取り、変化を読み取る。 〔表〕 ・綾の足跡を確認し、主人公に近づく。〔地図、ストリートビュー〕・	
2 大切な言葉に印〔赤〕をつけ、読みを深める。主人公の疑問の答え、「しかし」（逆接）、「それ」の指しているもの（指示語）、題名に関係する言葉、繰り返し出ている言葉	
3 表現の工夫を見付け、その効果を考える。	

学習計画(時間数)

その単元で身に付けさせたい学習方法等の説明等を
学びの手引きに掲載する工夫も有効です。

めあて 自動車を生産する人々の工夫や努力について調べ、日本の自動車生産を表すキャッチコピーを考えて伝え合おう。		
学習問題		
自動車を生産する人々は、速く作り、運ぶためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。また、どんな考えから新しい機能を開発しているのだろうか。		
学習計画		
時間	だれと学ぶか	学習すること
1	みんなで	学習問題を作る。
2	みんなで	学習問題の予想を立て、問題を作る。
3	みんなで	新しい言葉について調べ、学習計画を立てる。
4	選んで	問題①「自動車工場では、自動車を速く作るために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。」
5	選んで	問題②「組み立て工場では、自動車を速く作るために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。」
6	問題②から問題③までを、4時間で解決しましょう。	問題③「関連工場では、自動車を速く作るために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。」
7	問題④に気を付けましょう。	問題④「自動車を運ぶ人々は、自動車を安全に運ぶためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」
8		問題⑤「自動車を生産する人々は、どんな考えから新しい機能を開発しているのだろうか。」
9	みんなで	日本の自動車生産を表すキャッチコピーを考えて、まとめる。
10	みんなで	考えたキャッチコピーとその理由を発表する。

学習計画表の例(学習問題・誰と学ぶか・学習すること)

教師による伴走支援

児童・生徒に学びを委ねるということは、放任するということではありません。一人一人の児童・生徒を見取り、学習状況を把握し、個別の支援を丁寧に行っている学校があります。

児童・生徒がどのような文脈で現在の状況にたどり着いたのかを考え、どのような支援をどのタイミングで行うことが必要なのかを判断し支援に当たることが求められるため、教員としては一斉一律の講義型授業より高度な技術が求められます。「教員が学習を見てくれない」という思いを子供がもたないよう、子供へ育てたい力や授業スタイルについて十分に説明することや、長期間言葉掛けしていない児童・生徒が出ないようにすることなどが留意点として挙げられます。教師による講義・講演を止めたことにより生み出された時間を、個々の子供の見取りと支援に充てていきます。

解答への見通しが立ったところで、先生の声掛けの下、生徒たちは各自、学ぶ場所・相手を選択し、学習を進めていきます。

情報収集

整理・分析

一次関数を使って解いてみよう!

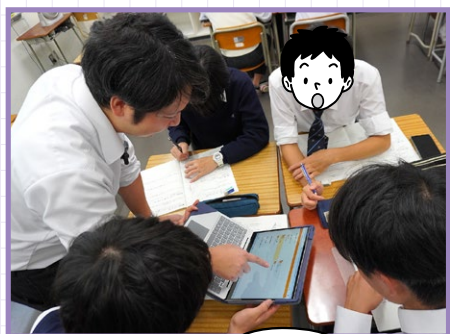


教室





一人で黙々と学習を進める生徒、グループを作って教え合う生徒と、様々な姿が見られました。



みんなできていかな...

空間のベクトル

□空間の座標 □空間のベクトル □ベクトルの成分
□ベクトルの内積 □位置ベクトル
□ベクトルと図形 □座標空間における図形

図1.1 空間のベクトル

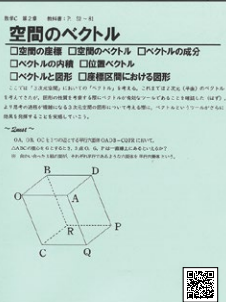
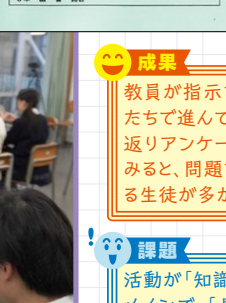


図1.2 空間のベクトル



練習問題の冊子には、空間ベクトルの解説動画や空間ベクトルのイメージ図などができる二次元コードが付いています。

問題は基本と発展に分かれており、生徒の到達度に合わせて、自己決定できるようになっています。

成果

教員が指示をしなくても自分たちで進んでできている。振り返りアンケートの集計を見ると、問題をよく理解している生徒が多かった。

課題

活動が「知識」「技能」の習得メインで、「見方・考え方」を働かせるまでに至っていない。

デジタル活用のポイント

解答できた問題は表計算ソフトに各自チェックして更新。教員は各班の進捗度をタブレットで確認できる。

環境をととした教育を推進

教室内外のレイアウトや学習掲示はもちろんのこと、教材・教具を子供が自由に活用できるよう準備するなど、児童・生徒の自立した学びを促すための学習環境を整備している学校があります。学習環境には、子供を取り巻く「人」との関わりやデジタル環境も含まれることを意識することが大切です。

教室内レイアウト

個別・協働を学習者が選択できる教室環境

個別も協働も実現できる学習空間



衝突して区切った個別の学習空間



対話のための机配置をデフォルト化



これまでの黒板に向かって一律に座る座席配置を変えるなど、協働のしやすさや個人での学びやすさを考え、学習環境を工夫することが考えられます。

教室外レイアウト

学習者同士の対話が生まれる教室外環境

個別に集中できるスペース



廊下等も学びの場として活用



デジタルと図書資料の併用



教室外においても児童・生徒が安心して学ぶ環境を設定するなど、学習者同士の対話のしやすさも想定し、学習環境を工夫することが考えられます。

学習掲示

学習者が学びたくなる環境

思考を深める発問も掲示



子供の学びに合わせて変化



学習している内容に関連する資料等を掲示するなど、児童・生徒が学びたくなるような仕掛けを考え、学習環境を工夫することが考えられます。

教材・教具準備

学習者が自由に教具を使える環境

いつでも自由に使える道具コーナーの設置



児童・生徒が教具等を自由に使えるコーナーを設置するなど、児童・生徒が自分のタイミングで学ぶことができるよう、学習環境を工夫することが考えられます。

人との関わり

学習者が人とつながることのできる環境

学びの伴走者としての教師



協働して学ぶ友達



専門的な知識を得られるゲストティーチャー



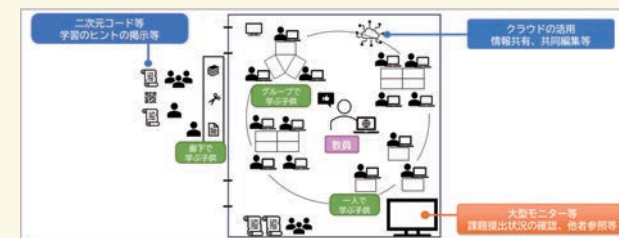
身近な相談役 保護者、地域の人



様々な人とつながりながら学ぶなど、デジタルを効果的に活用しながら児童・生徒の学びを皆で支えることができるよう、学習環境を工夫することが考えられます。

デジタル環境

学習者のデジタル活用が生まれる環境



デジタル機器を児童・生徒自身が使いこなし、個々の学びが充実するよう、学習環境を工夫することが考えられます。

安心して学ぶことのできる環境づくり

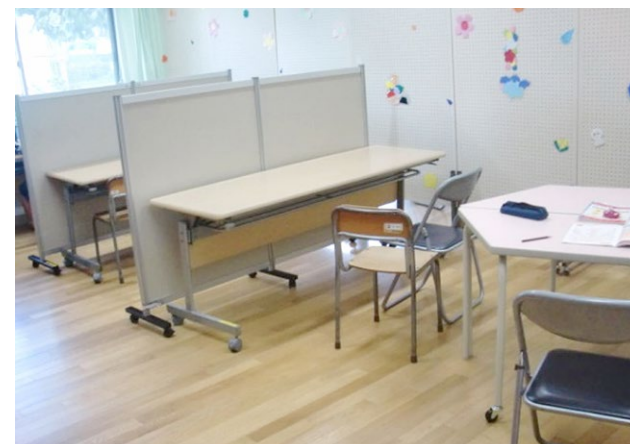
大勢がいる教室には入れない。でも、授業は参加したいし、気の合う仲間とも話したい。そのような思いをもっている児童・生徒のために、校内別室指導において、デジタルを活用し支援している学校があります。

この学校では、クラウド上に提示された学習内容について、別室に通う児童が取り組んでいます。仲間の学習成果物や、振り返りシート等を参考にしたり、グループチャットでやりとりしながら自分のペースで学習を進めています。教員及び支援員も、グループチャット等を活用し、学びを支援します。児童の学びたいという気持ちを最大限尊重し、安心できる居場所・学びの場を提供している学校において教職員が共有している配慮事項を紹介します。

参考 教職員で共有している配慮事項の例

別室における学習支援について

- 担任と別室指導支援員との意思疎通・情報共有を大切にすること
(出欠、遅刻・早退の確認、時間割・特別時間割など)
- 別室指導支援員へ一人1台端末を貸与し、連絡フォームや朝の連絡チャットの情報を共有すること
- 学級担任は、空き時間を活用し直接対面での交流すること
- 担任、又は教科担任が、別室利用児童の学習について検討し、学習管理アプリ上で指示を出すこと など



実際に校内別室指導を行っている部屋の様子



教師から子供へ
クラウド上で課題を発信

日々の家庭学習で自立した学習を支援

児童・生徒に対して、これまで一斉一律に課していた「宿題」を変えている学校があります。

自分に必要な学習は何か、こういったペースで取り組むかなど、スケジュールを立て自主的に家庭学習に取り組むことができるよう支援している事例を紹介します。

参考

宿題を課すのではなく、自主学習を進める学校の取組事例

児童・生徒が取り組むこと

- 1週間の家庭学習を自分で計画し、取り組む。また、自己の取組を振り返り、成長を確認する。
- 学習内容や取組の継続等について、困った時は先生に相談する。
- 確認日に、現在の取組状況を提出する。

教師がやること

- 自主学習の取組の意義や方法について、児童・生徒及び保護者に説明する。
- 学習内容や学習進度について個別に助言する。
- 教師による確認日を決め、自主学習の計画や取組状況を把握する。

取組の工夫

- デジタルドリルを活用するか、紙のドリルを活用するかは、児童・生徒が決める。
- 児童・生徒にも曜日ごとに一人一人の予定があるため、1週間の中でやるべきことを計画できるようにする。
- 家庭学習の習慣が身に付いていない児童・生徒や学習に苦手意識のある児童・生徒へは、共に学習計画を考えるなど支援する。
- 学習サポーターとして協力いただくよう、保護者への説明・周知を徹底する。
- 各教科等の基礎・基本の学習内容の定着に向けた練習だけでなく、児童・生徒の課題意識に基づき学ぶことを推奨する。

児童・生徒が作成する学習計画表の例

自学のすすめ【計画表】

○月○日から○月○日
学年・組・氏名

【身に付けたい力】

- ①継続する力 毎日の積み重ねによって成長
- ②集中する力 決められた時間は没頭
- ③自ら学ぶ力 自分を振り返り、必要なことを学習

予定表 ※取組内容、時間を計画

学習の振り返りを基に、自分に必要な学習を自分のペースで学ぶよう計画しましょう。

○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○

学習サポーター（保護者）の皆様へ

- ・ お子様が自学に取り組もうとする姿勢を認め、称賛しましょう。
- ・ 成長したところを、お子様と共に喜びましょう。
- ・ 困っていたら話を聞いてあげましょう。
- ・ 家庭学習が終わったらサポーターのサインをし、努力を褒めましょう。
- ・ 自学に集中できる環境を作りましょう。



児童・生徒の学びの文脈を分かりやすく示す様式

教員が、個々の児童・生徒の思考の流れを想定し、単元構想を考える取組を進める学校があります。従来の学習指導案様式を変え、新たに共通の様式を作成・共有することを通じて、学校全体で授業改善に取り組んでいます。

※子供の文脈で単元を構想するため、「教師の学習指導案」から「**子供の学びプラン**」へ名称を変更

例 A 小学校 学びプラン

児童・生徒の文脈で学習が展開されるよう、**想定される児童・生徒の思考の流れや反応を基に授業を設計する。**

※子供に学びを委ねるために必要な活動をアイコンで記載し、全校で確実に取り組むよう工夫

 教材から気付いたことを出し合う

 学習課題をつくる

 学習計画表をつくる（見通しをもつ）

 一斉指導の場面

 グループ学習の場面

 個人で学習する場面

 学びを振り返る場面

子供と共有する単元の目標や評価規準を記載

子供が学習課題や学習方法を自己決定するための手だてを整理

第 学年 () 科 学びプラン () 学校 () 年 () 組 () 名 授業者 ()									
単元名 (使用する教科書、副教材等の名称、出版社名等)			単元の評価規準 【知識・技能】 ・ ・ 【思考・判断・表現】 ・ ・ 【主体的に学習に取り組む態度】 ・				児童の実態 (本単元(題材)の学習内容に関する定着状況や関連する学習における実態、課題と、それに対応するための指導上の配慮や工夫等を記述)		
単元の目標 ・ (知識及び技能) ・ (思考力、判断力、表現力等) ・ (学びに向かう力、人間性等)			教材観 (授業で使用する教材や教具、資料、地域の人材、学習環境等の活用方法、また、単元観や児童観と関連させた教材の使い方について考えを記述)						
子供が自己決定する授業を実現するための手だて									
学びのプロセスの定着			思考スキル		デジタルリテラシー		子供に伴走する教師の役割		
■ ■			■ ■		■ ■		★ ★		
単元構想 (全 時間)									
	一次		二次					三次	
	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	8	9
主な学習の流れ	(1) (2) (3) (4)								
児童の姿	 	 	 予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援  予想される児童の姿を記述 ★教師の支援						
評価の観点									

子供に学びを委ねる場面を意図的に設定する。 • 1時間の一部分 • 単元の一部 • 単元全体

おわりに

都が目指す「デジタルを活用したこれからの学び」について、事例も含め紹介してきました。本取組が、単にアプリ等を活用する話ではなく、子供の学びをどのようにデザインするのか、教師はどのような役割を果たすべきか、など、まさに今問われている「これから学校教育に求められる学びの形」を考えることであると御理解いただけたのではないのでしょうか。

本ガイドブックに掲載されている内容は、授業改善のポイントとなります。大切なことは、目の前の一人一人の児童・生徒を理解し、自立した学習者の育成に向け、個に応じた**“しかけ”**を教師が考えることです。都で作成した各種計画及び指導資料、並びに各コンテンツを参考にし、児童・生徒が学び方を身に付け自ら学ぶことができるよう、授業をデザインしていただけると幸いです。

社会が大きく変化する中で、教育の世界もアップデートが求められています。誰一人取り残すことのない教育を実現するには、これまで積み重ねてきた教師の知見を結集し、試行錯誤を繰り返しながら実践を進めることが重要です。本資料が、これからの授業の在り方を考えるきっかけとなることを強く願っています。

参考

『東京都教育ビジョン第5次(令和6年3月)』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/about/action_and_budget/action/vision/vision2024

『東京都学校教育情報化推進計画(令和6年3月)』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/ict_utilization/informatization_plan

『デジタルを活用したこれからの学びの提案(令和5年4月)』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/02_03_03_teian

『デジタルを活用したこれからの学び デジタルブック(令和7年3月)』

<http://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/koremana/digitalbook/index.html>

『デジタルを活用したこれからの学び 授業動画(令和7年3月)』

<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/koremana360/KJ-jp-YLFBA8YdE/wwwroot/spg.html?m=KJ-jp-YLFBA8YdE>

『デジタルを活用したこれからの学び 授業体験コンテンツ(令和7年3月)』

<http://koremana.metro.tokyo.lg.jp/>

『デジタルを活用したこれからの学び 研究開発委員会指導資料(令和7年2月)』

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/2025-02-04-091442-862>



学校の授業を通じて、一人で考える力と、友達とともに協力して考える力の両方を身に付けることができました。先生方には自立することの大切さを教わりました。一人で学習に取り組む時間があることで、自分としっかりと向き合えるし、集中力も高まり、勉強がはかどりました。初めは自分の力で進める授業にびっくりしたけど、今ではこのやり方が自分に一番合っていると思います。

先生方には、私たち一人一人に任せながら、陰で支えてくれていたこと、一人で、また時には集まって仲間と協力して勉強していた僕たちを温かく見守ってくれたこと…そのことをとても感謝しています。ありがとうございました。(小学校)



すべての子供が将来への
希望をもって、自ら伸び、育つ
自立した学習者の育成に向けた
授業の在り方について
一緒に考えてみませんか？



東京都教育委員会

